

▶バスティン・メソッドが初めて紹介された講座の1つ(1976年、第一生命ホールにて)



▼ジェーン・バスティン
秋の特別公開講座
(1994. 10. 20. カワイミュージックショップ青山にて)



「ジェーン・バスティン」 公開講座に寄せて

このたび、ジェーン・バスティン女史が娘のリサ、ローリーと共に編纂された『ピアノパーティー』シリーズ(*)が出版された。

これを受けて、去る10月には、ジェーン・バスティン女史ご自身による公開講座が、大勢の方の参会のもとに、日本各地で開催された。

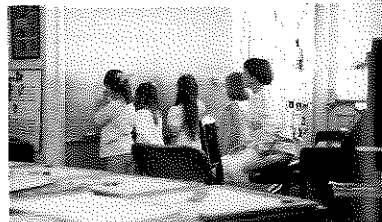
このバスティン・メソッド。現在の普及の影には、長年研究活動に努められた先生方の大変な力添えがある。その中のお一人、小川志津子先生に、今回の講座に寄せて、バスティン・メソッドへの思いを綴って頂いた。

■「生徒になって参加したい」 ——感動のレッスン風景

ピアノやヴァイオリンの美しい演奏を聴くと、「この方は幼い頃、どんな教え方で育てられたのだろうか」と、心の奥の深い感動の波に漂いながら、いつも考えてしまいます。そして目に浮かぶのは、5年前にサンディエゴ州のジェーン・バスティン先生の教室を見学した時の、子供達の楽しそうな生き生きとしたレッスン風景です。

幼いクラスから中学・高校クラスのそれぞれのグループレッスンと個人レッスンに、一人一人が生かされているのです。幼いクラスでは、ピアノを弾く前の段階で、高音・低音、長音・短音の聴き比べ、スタッカートとレガート、クレッシェンドとデクレッシェンド、1と2等の聴き分けに始まり、塗り絵に色を塗ったり、書いたり、自由に身体を動かしたり。少し上のクラスでは、各々が創ったメロディーで次々リレーしたり、合奏したり、和音を聴き分けて色塗り

▶バスティン先生のレッスン風景
(1989. 4. 26. サンディエゴ州にて)



したり、鍵盤シートに手足を伸ばしたり。このようなレッスンに積極的に参加している姿は、見学している私たちをも楽しませ、「生徒になって参加したい」という声が出た程度でした。

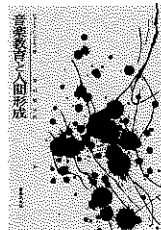
(*1)

幼い子供達の導入書として、『ペリーヤングピアノリスト』と『聴音と創作』各3巻を、よりわかりやすく細かい工夫が重ねられたもの。『ピアノパーティー』『パフォーマンスパーティー』『聴音と楽典パーティー』の3種類で構成され、それぞれ3段階にレベル分けしている。美しいカラー版で、一層楽しく取り組みやすい進め方になっている。



(*2)

音楽教育と人間形成
(音楽之友社)



■メソッド活用のアイデアが次々生まれてくるのです

私のバステイン・メソッドとの出会いは、20数年前に遡ります。福田靖子先生が、アメリカから持ち帰られた数多くのメソッドの中からこのメソッドに目を付けられ、バステインのワークショップを開かれました。そこに私も参加したのですが、以来、その教育法と理念に感動した数人のレスナーの方々とともに、マクガレル先生（バステイン先生の愛弟子）を中心にして、このメソッドの研究が始まったのです。

月に1度の研究会が待ち遠しく、このメソッドには目を開かれ、活用のアイデアが次々生まれてくるのです。お互いに研究発表したり、1ページずつ指導法を考案したりしながら、レスナーまでを育ててくれるこのメソッドの奥深さ、幅広さに、改めて感動させられました。そして今、進度が上がるにつれ、和音進行、曲の構成等も理解して演奏できる音楽の好きな子供達を育ててくれたことに、心から感謝しています。

■メソッドに込められた教育理念とは？

いつかジェーン・バステイン先生に「このような指導法がどこから生まれたのですか。」とお聞きしたことがあります。「ジェームス・L・マーセルの『音楽教育心理学』『音楽教育と人間形成』『音楽的成長のための教育』等に著されている内容を学び、ダルクロワーズのリトミックも応用しています。」と直接お答えくださいました。

コロンビア大学で共に譴責を積ま

れたバステイン夫妻は、マーセルの原点として、いる思想家ルソーや、その流れを汲むダルクロワーズ、それぞれに親交のあった心理学者ピアジェ、コダーイやバルトーク等の音楽教育の思想・理念を研究されました。そして、子供の心理と子供を一人の人格として大切に考えた音楽導入書としてバステイン・メソッドを幅広く系統的にまとめられました。

この功績は、現代のピアノ教育において、大きく讃えられるべきものではないでしょうか。

マーセルは、前述の著書『音楽教育と人間形成』(*2)で、次のように述べています。

一「音楽教師としての私たちの仕事の意味を、教育と生活に関連づけてもう一度考えてみることです。音楽は、人間生活に役立つこそ、教育に取り入れる価値があります。(中略)簡単にいえば、私達がより豊かに生き、より善良なより温かい心の人間になるためです。(中略)人間の教育は、知識の量や技術の有無で決められるものではありません。どんな知識や技術もそれ自身には何の価値もないのです。それを学ぶ人達が一老いも若きも一よりよい生き方ができるようになった時初めて、それを学んだ価値があったといえるのです。」

(P.10)

一「人間的成長をもたらさない音楽教育は、偽ものというべきです。」

(P.98)



▲研究会のみなさん 中央はジェーン・バステイン女史 (1994.10.20. 青山)

このように、厳しく音楽教育のあり方を説いていますが、バステイン・メソッドで導入を指導するとき、グループの子供同志が自然に仲良くなり、心豊かに育っていくのを体験して、バステイン夫妻の人柄、教育への深い想いを感じます。大きな流れをつかんで、1回1回のレッスンを確実に積み重ねていけるバステイン・メソッドは、演奏技術の上達を目指すだけではない音楽教育の原点を見据えた優れたメソッドです。

■「21世紀を生きる子供たちに良いレッスンを…」

今回のバステイン先生の講座を聴きながら、20年のさまざまな思い出が胸をよぎり、上総治子先生、宮本聖子先生をはじめ、教材研究会の先生方と共に、日本各地にご紹介させて頂いたこのメソッドが、今、広く用いられていることに沁々とした喜びを感じ、バステイン先生が今後も元気で活躍してくださることを祈りました。そして「21世紀を生きる子供たちに良いレッスンを…」と、更に指導法の研究を重ね続けていきたいと願っております。